



第3回三宅島エコツアー◎10月17～19日

—三宅島噴火から14年の秋に—

「元に戻すのではなく。新しく創る！」 「人情・情熱が支えている」三宅島の人々



秋晴れの空の下に、風に揺れるたくさんのすすきの穂。1本1本が力強く岩間に根を張り、風に揺られながら種子を運び、年を追うごとに自らその縄張りを広げていく。少しずつだけど着実に—。黒い溶岩の岩肌が悠久の時を経て、深い緑に変わっていく。秋に訪れた三宅島では、自然と時間、そこに住む人がもたらす変化の息吹を感じることができました。

今回で第3回目を迎えた「三宅島エコツアー」は、真夏に開催した過去2回と異なり、初めての秋の開催。10月17日～19日の3日間、参加者とスタッフ7名で行きました。

今回は、島で暮らす方との交流できる時間を長く設け、宿泊した「やまのべ旅館」の女将さんから、2000年の避難時や帰島時、生活・島の復興などのお話について伺いました。



三宅島から船で～イルカに会えた！ 感動の瞬間

■やまのべ旅館の女将さんのお話

「2000年の全島避難後すぐに行われた東京都からの住宅の供給は、緊急の対応だったため、それまで島の同じ集落で共に暮らしていた人たちが、都内各地の公営住宅のどこに行ったかも分かりませんでした。近くに住むご高齢の方の中には島外に出たことがない人もいたため、近くに住む島民同志が買い物や外出などで協力し、暮らしていました。帰島時も、継続的な仕事の確保や公営住宅の賃貸契約の面から、帰島をするかどうかは必ずしも自由に選択ができる訳ではありませんでした。」女将さんは旅館業を営んでいたため、避難解除から早い段階で戻り、復興工事をする土木関係の方の宿泊地を確保しながら、まだ物資も十分に揃わない状態から1年を掛けて建物を修復。他の人は帰

島したくても仕事や金銭面など、さまざまな事情で島に戻らない選択をした方もいます。噴火から14年経つ現在でも、島の人口は避難前より大きく下回ります。女将さんは噴火の前の元の状況に戻そうとするのではなく、新しく島の魅力を自分たちで島を創り、伝えていくことが大事と考え、自ら「三宅島レディースラン」



エコツアー参加者と山野辺旅館の女将さん

を企画。外部に向けて発信をし、協賛企業・参加者など新しいつながりをできているそうです。次のステップに向けて、前向きに取り組んでいらっしゃる姿はとても力強く、参加者みんなが話に惹き付けられました。

■島の自然の変化と時の流れ

島の中央に聳え立つ雄山へ。2000年の噴火で、山頂付近にできた火口からでる火山性のガスのため、噴火直後はそれまで生えていた植物が枯れ、山肌が露になった部分が多かったとのこと。ガスの発生が減り、風に運ばれたススキなどの下草が根付きます。同行していただいたガイドの菊地さんによると、その面積が年を追うごとに広がっているそうです。



溶岩の間に根を張った美しいススキの原



三宅島のガイド菊地ひとみさんから植生を聞く

下草が生えた土地に低木が育ち、長い時間を掛けて深い森に育っていきます。島全体が火山であり一定の周期で噴火を繰り返す三宅島の中には、数百年、千年以上前の火口が深い緑に囲まれている場所もあり、自然による影響を大きく受けた地形と、緑が再生する力を同時に見ることができ、人間が生きる以上の時間の流れを、目や耳を通して感じることができました。





1歳児の母「ただの公園がこんなにも楽しいところになるとは思わなかったのととても新鮮だった。」



成増社会教育会館主催(担当者 杉浦社会教育指導員) 子育て講座「五感力生き生き子育て」4回連続シリーズの3回目。4か月から2歳までのお子さんを持つ保護者に向けて、感性を磨き高める大切さについて、交流したり体験したりする講座が開かれました。参加者は、広報で募り、意欲的に参加された方ばかりです。

集まった平和公園では、小さな乳飲み子を抱きかかえての参加。板橋区が募ったボランティアの保育士さんが10人も支援で参加され、お母さん方は安心して、自然活動に参加できました。素晴らしい支援ですね。



「いもむしのたからぶくろ」ボランティアのSOE学生スタッフ高田さんが、芋虫母さんが病気になるお話の紙芝居

紙芝居を読む学生スタッフ



居を公園で読むと、お母さんたちも赤ちゃんを抱っこしながら、熱心に耳を傾けました。

さあ、それからはみんなで、芋虫になって、アオスジアゲハのお母さんを救うために、自然のたからものがしです。どんな発見があったのでしょうか。

◎汚れるし、ちょっと気持ち悪いと思っていた自然にふれて、とても気持ち良かったです。雨上がりのしっけた緑の匂いが好きだったことを思い出しました公園の中でたくさんの木があり、実もたくさんなっていた。それぞれの木・葉の匂いがあって改めてかいてみて、いろいろあるなと思った。◎公園をじっくり観察することがなかなかないので楽しかった。◎普段立ち止まらない木の前で、その葉の匂いをかぎ、その「肌」に触り、自然を感じ取ることができ、心が和みました。◎香りのする葉っぱに出会って感動しま



保育士さんに助けられながら、観察



親子・保育士さんの連帯で、緑陰の自然を楽しむ

した。木の根やはだにさわり、木も生きているんだということを再認識できました。☺葉の香り・音・子供が見つけたもの（どんぐり・葉っぱ・虫）☺桂・クスノキの葉のにおい、一斉に鳩が飛び立つところ。☺桂の葉っぱの匂いを初めて知りました。とてもいい匂いでびっくりしました。☺自分で意識して五感を使い、木の感触や木の葉の香り、鳥の声などを感じすがすがしい気持ちになりました。☺鳥の鳴き声、ぎんなんが

ブドウのようになっていたことに感動しました。とてもリラックスできました。☺もう、紅葉が始まっていることに気付きました。☺樹の皮の手触り、苔が生えていたり、硬く乾いてゴワゴワしていたり。☺鳥の声、カラスやオナガなどいろんな声が聞こえました。☺初めてこんなにのんびり散歩したので、自然がたくさんあるなど感心しました。☺公園の周りを歩く機会がなかったので、とても楽しかったです。教えてもらった桂の葉の匂いがとても良かった。初めて知ったのですが、葉に匂いがあるとは知らなかった。子どもが木の肌に喜んでいました。☺公園をすみずみまで見ることがなかったので新鮮で楽しかった。☺触ること、



カルガモの子どもを見る親子

と、かぐこと、聞くこと、たくさんの感覚を使ってこの時間を過ごすことができた。☺楽しく活動でき、五感をすべて感じられた。☺子供が自由に歩いてよかった。今までにない視線だった。

.....

成増社会教育指導員 杉浦さんのおはなし

「平和公園の中を五感を意識しながら散歩して、いろいろな気づきや発見を得た。何気なく見過ごしてしまう公園だが、少しの知識やヒント、アイデアで見える目が変わり、樹木や生きものへの関心が強まったと思う。」

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp